

目 次

プログラム

大会日程表	2
連絡事項	3
Microsoft PowerPoint® でファイルを作成する際の注意	4
各種会議のお知らせ	5
学会賞授与式・学会賞受賞講演	5
日本昆虫学会第70回総会案内	5
懇親会案内	5
公開シンポジウム	
第1日目(9月18日)	6
第2日目(9月19日)	6
小集会	
第2日目 第1部(9月19日)	7
第2日目 第2部(9月19日)	8
第3日目 第1部(9月20日)	8
第3日目 第2部(9月20日)	9
一般講演を含む全講演	
第1日目(9月18日)	10
第2日目(9月19日)	12
第3日目(9月20日)	15
大会参加者名簿	17
大会会場の周辺図と交通経路	21
受付・一般講演・小集会の会場案内図	22

講演要旨

A会場(一般講演)	23
B会場(一般講演)	35
C会場(一般講演)	47
D会場(一般講演)	59
E会場(一般講演)	71
公開シンポジウム	83
小集会2日目	87
小集会3日目	95

大会役員

大会会長：安田弘法（山形大・農）
副会長：郷右近勝夫（東北学院大）
総務：佐藤 智（山形大・農）
幹事：明石寛道（山形防除所）・上田紘司（岩手大院・連合農）・上野 清（山形県立農業大学校）・斎藤 隆（庄内総合支庁）・櫻井俊一（山形昆虫同好会）・田中一裕（宮城学院女子大）・田中健一（山形大・農）・横倉 明（山形昆虫同好会）・横山克至（山形農総研セ）・吉田信代（東北農研セ）・渡辺和弘（置賜総合支庁）

大会期間中(9月18日～20日)の連絡先
(講演取り消しなど)

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23
山形大学動物生態学研究室 (事務局)
Tel: 0235-28-2863
e-mail: kontyu@tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp

日本昆虫学会第70回大会

(2010)

プログラム



大会日程表

月 日	時 間	会 場				
		A会場 102	B会場 201	C会場 202	D会場 301	E会場 302
9月18日 (土)	9:00~12:00	分 類	系統・化石・ 生物地理 進化・遺伝・ 種分化	多様性・保全・ 環境	生活史	行動・行動生態
	13:00~15:30	公開シンポジウム A (D会場 301) / 公開シンポジウム B (E会場 302)				
	15:30~16:30	学会賞授与および受賞講演 (D会場 301)				
	16:30~18:00	総 会 (D会場 301)				
	18:15~20:15	懇 親 会 (鶴岡ワシントンホテル)				
9月19日 (日)	9:00~12:00	分 類	系統・化石・ 生物地理 進化・遺伝・ 種分化	多様性・保全・ 環境 飼育法	形態・組織 生態・分子生態	生活史 生理生化学 生理活性物質 有用昆虫・衛生昆虫 その他
	13:00~16:00	公開シンポジウム (東京第一ホテル「鳳凰の間」)				
	16:15~18:15	小 集 会				
		季節適応談話会	「昆虫の家族をめぐる進化生態学」第2回	第9回 穿孔性昆虫を語る会	好蟻性昆虫小集会	第19回 昆虫担当学芸員協議会総会「大学博物館と一般博物館のコラボレーション」
17:00~19:00	「里山昆虫談話会—里山以前を考える—」 (特別会場: 旅館「月山荘」)					
9月20日 (月・祝)	9:00~11:15	分類 発生・進化発生	進化・遺伝・ 種分化 形態・組織	多様性・保全・環境 害虫管理 生物学的防除	生態・分子生態	行動・行動生態
	13:00~15:00	小 集 会				
		多女王制進化の道程	第14回 地表性甲虫談話会例会	双翅学会	熱帯昆虫多様性小集会	昆虫分類学若手懇談会シンポジウム
15:15~17:15	ハナバチ談話会	日本半翅類学会				

会期：平成22年9月18日(土)～20日(月・祝)

会場：山形大学

鶴岡市若葉町1-23

連絡事項

1. 受付 9月18日(土) 午前8時30分から、山形大学農学部3号館101講義室で行います。
2. 講演時間 一般講演は15分の講演時間(発表12分、質疑3分)を厳守願います。予鈴10分、本鈴12分、終鈴14分30秒で時間をお知らせします。講演取り消しがあった場合は時間を繰り上げず、空き時間とします。
3. 座長 発表終了者には、次の講演の座長をお願いします。午前および午後の最初の講演の座長は大会事務局で対応します。
4. 液晶プロジェクターによる発表 Microsoft PowerPoint® でファイルを作成し、コンパクトディスク(CD)に保存してください。発表の前に試写室(203情報処理教室)で、PowerPoint 2007 for Windows のインストールされたノートパソコン(OSはWindows XP®)を用いて、ご自身のプレゼンテーションの動作チェックを必ず行って下さい。試写室は毎日8:30に開きます。初日の2番目までの講演者は前々日までにメールの添付ファイルでお送り頂ければこちらでチェック・準備をいたします(大きなファイルは添付不可)。講演される方は、ご自身の発表の30分前にCDを会場内の係員にお渡しください。ただし、その日の初めの講演に関しては15分前といたします。開始後は講演者の指示に従って係員がパソコンを操作します。また、申し出ていただければ、講演者ご自身でパソコンを操作することもできます。講演終了後にCDをお受け取りください。CDは650MBあるいは700MBのCD-Rのみとします(CD-RW、USBフラッシュメモリーは不可)。講演者の質疑応答中に次講演のCDを立ち上げますので、質疑応答中の再投影はできません。ファイルを作成する際には次頁の「Microsoft PowerPoint® でファイルを作成する際の注意」をお読みください。
5. 公開シンポジウム シンポジウムは全て公開です。一般の方も、自由にご参加いただけます。大会参加費はいただきません。
6. 小集会 運営はそれぞれの世話人の責任で行ってください。液晶プロジェクター、およびノートパソコンは事前に申し込まれている場合のみ貸し出しますので、世話人の方は御注意ください。事前申し込みしていない場合にはご自身での準備をお願いします。
7. 懇親会 9月18日(土曜:第1日目)午後18時15分より鶴岡ワシントンホテルにて行います。
8. 名札 事前申し込みをされた方には講演要旨とともに名札をお送りいたします。当日参加の方には受付で名札をお渡しします。名札カードで懇親会申込者を区別しますので、懇親会会場では必ず名札をお付けください。
9. 喫煙 建物内はすべて禁煙です。会場周辺の指定の喫煙所をお願いします。
10. 駐車場 キャンパス内の駐車スペースはきわめて限られます。自家用車での参加はご遠慮ください。
11. 昼食 学会期間中18日(土)~20日(月・祝)は山形大学農学部生協食堂が営業しています。大学周辺にはコンビニや食堂がありますが、なるべく生協をご利用下さい。弁当も販売しています。
12. 荷物 大会本部に荷物スペースを準備します。ただし、クロークではありませんので、利用される方はご自身の責任で荷物を置いてください。また、荷物スペースのご利用は「一般講演の時間帯」に限らせていただきます。

Microsoft PowerPoint® でファイルを作成する際の注意

OS や PowerPoint® に様々なバージョンが存在するため、投影時にトラブルが予測されます。本大会でプレゼンテーションに使用するコンピューターの OS は Windows XP®、アプリケーションは Microsoft PowerPoint® 2007 です。ディスク作成後、別のコンピューターの Microsoft PowerPoint® 2007 for Windows においてファイルが正常に動作することを確認して頂けるとトラブルを最小限にできます。会場内に発表で用いるものとはほぼ同スペックのコンピューターを試写室（203 情報処理教室）に用意しますので最終確認にお使いください。また、以下のことにご注意ください。

- ・写真などの画像を使用する場合、PowerPoint® 上で縮小、回転などをせずに、あらかじめ画像ソフト等で実際に使用するサイズ・解像度（100dpi 程度）に縮小してから PowerPoint® に挿入してください。あまりファイルサイズの大きな画像を使用すると、表示できなかつたり、動作が極めて遅くなつたりします。
- ・動画の使用は、講演の本題に深く関わる場合にとどめてください。動画を使用する場合、Windows Media Player が標準で再生できる形式に限ります（AVI や mpeg）、Quick Time や Real Player は対応できません。DivX などの特殊な codec を使用することは避けてください。また、ppt ファイル、動画ファイルがともに CD 上に存在し、リンクが維持されていることを、予めご自身でよくご確認ください。
- ・コンピューター・液晶プロジェクター共に画面の解像度は XGA（1024×768）です。このサイズよりも大きい場合にはスライドの一部が表示できないことがあります。
- ・原則として音を出すことは禁止します。
- ・事前にご自身でウイルスチェックを行ってください。
- ・緑色を背景として赤色の文字を映写するといったスライドは避けてください。
- ・大会本部のコンピューターを長時間占有しての大規模な再構成、CD-R の作成は、他の講演者のご迷惑になりますので、お断りします。

円滑な運営のために、CD-R の取扱は以下の点にご注意ください。

- ・1 講演につき 1 枚の CD を用い、CD には講演用のファイル以外は入れないでください。
- ・ファイル名は原則「講演番号.ppt」としてください。特に Macintosh をご使用の方は拡張子（ファイル名最後の「.ppt」）を付けることを忘れないでください。
- ・CD-R は注意して扱い、ケースに入れてお持ちください。CD は本体またはケースに講演番号とお名前をお書きください。不測の事態に備えてバックアップデータもお持ちください。
- ・CD-R にデータを保存する時は、必ず Windows 用のフォーマット（IS09660）で、ファイナライズ（ソフトによっては「CD のセッションを閉じる」などの表現が使われています）を行ってからにしてください。これを怠った場合ファイルが開けなくなります。

各種会議のお知らせ

大会前日 9月17日(金) 農学部1号館

13:00～14:00	日本昆虫目録編集委員会 (1号館 2F 大会議室) 電子化推進委員会 (1号館 1F 小会議室) 日本の昆虫編集委員会 (1号館 2F リフレッシュルーム)
14:00～15:00	編集委員会 (1号館 2F 大会議室) 自然保護委員会 (1号館 1F 小会議室) 将来問題委員会 (1号館 2F リフレッシュルーム)
15:00～15:30	幹事会 (1号館 2F 大会議室)
15:30～18:00	評議員会 (1号館 2F 大会議室)

学会賞授与式および受賞講演 (第1日目)

(D会場：301講義室) 9月18日(土) 15:30～16:30

(1) 2010年度学会賞

受賞者：森山 実、沼田英治 (受賞講演者は森山実会員)

受賞論文：Minoru MORIYAMA, Hideharu NUMATA. (2009) Comparison of cold tolerance in eggs of twocicadas, *Cryptotympana facialis* and *Graptopsaltria nigrofusca*, in relation to climate warming. *Entomological Science* 12: 162-170.

受賞者：高須賀圭三、松本吏樹郎、大林延夫 (受賞講演者は高須賀圭三会員)

受賞論文：Keizo TAKASUKA, Rikio MATSUMOTO, Nobuo OHBAYASHI. (2009) Oviposition behavior of *Zatypota albicoxa* (Hymenoptera, Ichneumonidae), an ectoparasitoid of *Achaearanea tepidariorum* (Araneae, Theridiidae). *Entomological Science* 12: 232-237.

(2) 2010年度若手奨励賞 (受賞講演はありません)

受賞者：後藤慎介

研究タイトル：「ハエ類の季節適応機構に関する研究」

日本昆虫学会 第70回総会 (第1日目)

(D会場：301講義室) 9月18日(土) 16:30～18:00

懇親会 (第1日目)

(鶴岡ワシントンホテル) 9月18日(土) 18:15～20:15

公開シンポジウム A 9月18日(土) 13:00～15:30

「生物多様性保全における研究者の役割」 (D会場：301講義室)

企画者・世話人：溝田浩二 (宮城教育大学附属環境教育実践研究センター)

- S1A1 中村康弘 (日本チョウ類保全協会)：「日本の昆虫類保全の展望と課題」：チョウ類を例として
- S1A2 永幡嘉之 (山形大学)：研究者、行政、地域住民の役割：チョウセンアカシジミを例に
- S1A3 林田光祐 (山形大学)：都沢湿地の保全活動の展開と今後の課題

公開シンポジウム B 9月18日(土) 13:00～15:30

「必要な人にとどけたい昆虫の生物多様性情報」 (E会場：302講義室)

企画者・世話人：前藤 薫 (神戸大院・昆虫機能)

- S1B1 ○五箇公一・岡本卓 (国立環境研)：地球時代の環境保全に必要とされる生物多様性情報
- S1B2 三浦一芸 (農総研)：分子を利用すれば害虫と天敵の同定は簡単
- S1B3 ○神保宇嗣・倉島 治・宇津木望・加藤俊英・伊藤元己 (東大・院・総合文化)：DNA バーコーディングと生物多様性情報をつなぐ情報システム
- S1B4 ○戸田正憲・胡耀光 (北大・低温研)：生物多様性科学のための同定支援ツール開発：失敗と成功

公開シンポジウム 9月19日(日) 13:00～16:00

「昆虫から眺めた温暖化と生物多様性」 (東京第一ホテル：鳳凰の間)

企画者・世話人：藤崎憲治 (京大院・農)・沼田英治 (京大院・理)

- S2C1 桐谷圭治 (伊東市)：外来種の北進が在来種を絶滅に追いやる：ミナミアオカメムシとアオクサカメムシ
- S2C2 湯川淳一 (九大)：昆虫の出現期と植物の開葉期のずれが生物多様性に及ぼす影響
- S2C3 石井 実 (大阪府大院・生環科)：温暖化と南方系チョウ類の分布拡大
- S2C4 ○沼田英治 (京大院・理)・森山 実 (宇都宮大・農)：都会のセミの多様性が失われた理由
- S2C5 藤崎憲治 (京大院・農)：温暖化のカスケード効果：シカの増加が昆虫の多様性に及ぼす影響

小集会（第2日目 第1部） 9月19日(日) 16:30～18:30

「季節適応談話会」（A会場：102 講義室）

世話人：田中一裕（宮城学院女子大学）・後藤慎介（大阪市立大学）

- AW211 遠藤千尋（新潟大・超域）：ケラの翅型二型の地理的変異
- AW212 中尾史郎（京都府立大院・応用昆虫）：温度反応と光周反応からみた植食性アザミウマの越冬と翅型
- AW213 後藤三千代（山形大・農）：庄内地方における昆虫の休眠と耐寒性

「昆虫の家族をめぐる進化生態学」第2回（B会場：201 講義室）

世話人：鈴木誠治（長岡技術科学大学）・工藤慎一（鳴門教育大・院・学校教育）

- BW211 ○工藤慎一（鳴門教育大・院・学校教育）・鈴木誠治（長岡技術科学大）：孵化の同調・非同調：親子のバトルグラウンド？
- BW212 高田 守（東京農工大）：ヨツボシモンシテムシにおける親の戦略としての非同調な孵化
- BW213 向井裕美（佐賀大・農）：なぜ同調的に孵化できるのか？—亜社会性ツチカメムシ類における孵化タイミングの調節機構—

「第9回 穿孔性昆虫を語る会」（C会場：202 講義室）

世話人：梶村 恒（名大院生命農）・荒谷 邦雄（九大院比文）

- CW211 上田明良（森林総研北海道）：Inbreedingする甲虫：種子食性キクイムシの生活と性比
- CW212 ○赤嶺真由美（九大院比文）・近 雅博（京都府）：オオセンチコガネの地理的色彩変異の総合的研究—保全管理単位の認識を中心として—

「好蟻性昆虫小集会」（D会場：301 講義室）

世話人：小松 貴（信州大・理）

- DW211 矢後勝也（東大・総合研究博物館）：好蟻性シジミチョウ類の多様性と進化
- DW212 ○坂本洋典（北大）・馬場友希（農環研）・砂村栄力・鈴木 俊（東大）・東正剛（北大）：アルゼンチンアリ侵入が好蟻性ハエトリグモ アオオビハエトリの採餌行動に及ぼす影響
- DW213 ○上田昇平（信大・理）・Swee-Peck Quek（ハーバード大・FASセンター）・大久保忠浩・清水加耶・市岡孝朗（京大院・人環）・市野隆雄（信大・理）：アリ植物をめぐる生物間相互作用の形成過程を探る
- DW214 ○小松 貴（信州大・理）・小西和彦（北海道農業研究センター）：好蟻性蜂類アリヤドリバチ亜科（ヒメバチ科）の寄生行動
- DW215 ○丸山宗利（九大博）・小松 貴（信州大・理）・R. Henry Disney（ケンブリッジ大）：八重山諸島で台湾シロアリの菌園から見つかった奇妙なハエ（ハエ目：ノミバエ科）

「第19回昆虫担当学芸員協議会総会」（E会場：302 講義室）

世話人：湯川淳一（九大）・金沢 至（大阪市自然博）

テーマ：「大学博物館と一般博物館のコラボレーション」

- EW211 畷 洪（福岡市）：大学博物館とは何か（目的と設置経緯）
- EW212 友国雅章（国立科学博物館）：大学博物館と一般博物館のコラボの実績：「フェアブルにまなぶ」展の意義と課題
- EW213 大原昌宏（北大・総合博物館）：大学博物館と一般博物館：ミッションの違いと共有、パラタクソノミスト養成講座を例に
- EW214 湯川淳一（九大）：米国の大学博物館事情を踏まえた日本の大学博物館と他の博物館の連携への提案

小集会（第2日目 第2部） 9月19日(日) 17:00～19:00

「里山昆虫談話会—里山以前を考える—」（特別会場：旅館「月山荘」）

※会場は例年と異なり、以下の通り大会会場の外部で開催致しますのでご注意ください。

（会場：旅館「月山荘」※鶴岡市上畑町 10-77、TEL 0235-23-1125、FAX 0235-23-1199、<http://www2.jan.ne.jp/~gassanso/>）

世話人：石井 実（大阪府大）・立川周二（NPO 法人自然環境復元協会）・渡辺和弘（山形市）

協力：山形昆虫同好会

FW221 永幡嘉之（自然写真家）：クリ林に群生するカタクリはどこから来たか

FW222 須賀 丈（長野県環境保全研究所）：草原の昆虫たちはどこにいたか

FW223 四方圭一郎（飯田市美術博物館）：「原生林の隙間」から里山の昆虫のルーツを考える

FW224 永幡嘉之（自然写真家）：極東ロシアに「水田以前」の日本の姿を見る

※「月山荘」は大会会場の山形大学農学部から徒歩5分程のところではあります。小集会終了後に、同会場で懇親会（予約制：会費 5,000 円）を開催します。懇親会に出席を希望される方は、8月31日（火）までに、直接「月山荘」まで電話等で申し込み願います。また、同旅館は宿泊（6,500 円、朝食付、相部屋の場合もあり）も可能ですので、ご希望の方は併せて申し込み願います。（懇親会等問合せ先：櫻井俊一 TEL0234-22-7359、渡辺和弘 TEL023-623-8822）

小集会（第3日目 第1部） 9月20日(月) 13:00～15:00

「多女王制進化の道程」（A会場：102 講義室）

世話人：廣田忠雄（山形大）・佐藤俊幸（農工大）

AW311 廣田忠雄（山形大・理・生物）：多女王制の進化を促す要因

AW312 ○川島佑貴子・佐藤俊幸（農工大・院・共生）：日本列島で多女王制は何回進化したか？：ウメマツオオアリ亜属の事例

AW313 白戸亮吉（山形大・院・理工）：多女王制進化におけるワーカーの役割

「第14回 地表性甲虫談話会例会」（B会場：201 講義室）

世話人：藤澤貴弘（大阪府大院・生環）

BW311 ○藤澤貴弘・石井 実（大阪府大院・生環・昆虫）：「淀川河川敷鶴殿のヨシ原保全が地表性甲虫群集に与える影響」

BW312 ○池田紘士（森林総合研究所）・曾田貞滋（京大・理）：「ヒラタシテムシ亜科における飛翔能力の退化」

「双翅学会」（C会場：202 講義室）

世話人：中村剛之（弘前大学白神自然観察園）

CW311 中村剛之（弘前大・白神）：ガガンボ上科の科階級での分類の変遷について

*この他、総会と一人一話を予定しています

「熱帯昆虫多様性小集会」(D会場：301 講義室)

世話人：丸山宗利 (九州大学総合研究博物館)

- DW311 丸山宗利 (九大博)：ウル・ゴンバックにおける甲虫相の調査、ならびに本小集会の趣旨
DW312 ○伊藤文紀 (香川大・農)・Rosli Hashim (マラヤ大・理)：マレー半島ウル・ゴンバックのアリ相
DW313 市岡孝朗 (京大・環境学堂)：ランビル・ヒルズ国立公園における昆虫多様性調査
DW314 ○細石真吾・Le Ngoc Anh・緒方一夫 (九大熱研セ)：カンボジアにおけるアリ類の多様性- グローバル COE アジア保全生態学のコアサイト紹介
DW315 ○中瀬悠太・加藤真 (京大院・人環)：熱帯のネジレバネの多様性と生態の解明

「昆虫分類学若手懇談会シンポジウム」(E会場：302 講義室)

世話人：佐野正和 (北大院)・鶴智之・古川恒太・松村洋子・蓑島悠介

テーマ：「分類学者の悩み - 分類学研究における諸問題とその解決に向けて -」

- EW311 ○和智仲是 (九大・院・システム生命)・井手竜也 (九大・院・比文)・阿部芳久 (九大・院・比文)：ゴール形成性タマバチと同居性ヤドカリタマバチ (膜翅目：タマバチ科) をめぐる分類学的諸問題
EW312 三田敏治 (東京農大・農)：カマバチ科が抱える分類学的諸問題
EW313 佐野正和 (北大院・農・昆虫体系)：アブラムシ上科の属階級群名における命名規約上の諸問題とその整理
EW314 荒谷邦雄 (九大・院・比文)：種の記載を困難にする「よくある問題」とその対処法～クワガタ・カブトにおける実例を中心に～

小集会 (第3日目 第2部) 9月20日(月) 15:15～17:15

「ハナバチ談話会小集会」(A会場：102 講義室)

世話人：宮永龍一

演題および講演者：未定

「日本半翅類学会」(B会場：201 講義室)

世話人：友国雅章 (科博)・林 正美 (埼玉大)

演題及び講演者： 一人一話で行います

一般講演

第1日目 (9月18日 土曜) 午前

	A	B	C	D	E
9:00	A101 内船俊樹 (横須賀市博) 四国のガロアムシ類について	B101 〇清水将太 (筑波大・院・生命環境)・町田龍一郎 (筑波大・菅平高原実験センター) ハサミムシ目8科の卵構造	C101 〇石谷正宇 (大阪産業大学)・白川勝信 (芸北高原の自然館)・柴田忠彦 (広島市)・水田國康 (広島市) 自然再生事業地霧ヶ谷湿原におけるチョウ類による環境評価について (予報)	D101 〇増田倫士郎・中尾史郎 (京都府大院・応用昆虫) <i>Limnopus</i> 属のアメンボ2種の飛翔活性と休眠に及ぼす光周期の影響	E101 〇小林紀絵・小松一磨・山口勇気 (新潟大・教育)・岩西哲 (みなくち子どもの森自然館)・工藤起来 (新潟大・教育) 多巢性のアリにおける巢仲間認識
9:15	A102 〇神通芳江 (筑波大院・生命環境)・長島聖大 (伊丹市昆虫館)・町田龍一郎 (筑波大・菅平高原実験センター) 日本産シロアリモドキについて - 伊丹市昆虫館からの日本未記載種の発見 -	B102 〇奥野絵美 (愛知埋文)・森勇一 (金城学院大) 中世の考古遺跡から多産するヒメコガネについて	C102 〇中村寛志・山根仁・江田慧子 (信州大学農学部 AFC) 長野県上高地の歴史とチョウ類群集の構造	D102 〇モントーヤフェリペ・荒川良 (高知大学農学部昆虫学研究室) ニッポンクサカゲロウの休眠における温度と日長の効果	E102 山口剛 (千葉県立中央博物館) アリの飛降りによる脱出行動
9:30	A103 〇山岸彩都, 吉澤和徳 (北大院・昆虫体系) 天売島で繁殖するカモメ類2種から得られたハジラミ類の分類	B103 〇義久侑平・吉田剛司 (酪農大・野生動物)・堀繁久 (北海道開拓記念館)・梶光一 (東農工大・農) 北海道におけるオオセンチコガネ <i>Phelotrupes auratus</i> の分布とその制限要因	C103 井上大成 (森林総研多摩) 森林総合研究所 (茨城県つくば市) 構内における13年間のチョウ類群集の変遷	D103 〇田中誠二・前野浩太郎 (農生研・バッタ研究室) サバクトビバッタがモーリタニアで大発生?形態、体色、行動的特徴	E103 〇北川雄士 (香川大・農)・丸山宗利 (九州大・総合研究博物館)・伊藤文紀 (香川大・農) 好雌性ハネカクシ類における宿主アリ利用様式の多様性
9:45	A104 奥寺繁 (九大院・農・昆虫) 日本産マエジロヨコバイ属の分類学的研究 (カメムシ目:ヨコバイ科)	B104 〇阿部芳久・井手竜也・三島美佐子 (九大)・須山知香 (金沢大)・佐藤信輔 (宮崎大)・松尾和典・和智伸是 (九大)・Bhuyan, M., Mech, J., Bhattacharyya, P. R. (North-East Institute of Science & Technology, India) インドにおけるナライガタマバチ (膜翅目:タマバチ科) の発見とその生物地理学的意義	C104 〇那須義次 (大阪府病害虫防除所)・村濱史郎 (野生生物保全研究所)・三橋陽子 (兵庫県立コウノトリの郷公園)・大迫義人 (兵庫県立大学)・上田恵介 (立教大学) コウノトリの巣から発見された鞘翅目と鱗翅目昆虫	D104 〇前野浩太郎・田中誠二 (農生研・バッタ研究室) サバクトビバッタの孤独相と群生相の餌質の違いに対する反応とその意義	E104 〇山中康如・岩田隆太郎 (日大・生物資源) ヤマトシロアリの同巢個体による共喰い発現因子の職蟻体液中における存在
10:00	A105 大原直通 (九大院・生資環・昆虫) 日本産 <i>Salka</i> 属 (カメムシ目:ヨコバイ科) の分類学的研究	B105 〇三枝豊平 (福岡市)・杉本美華 (九州大学総合研究博物館) 東アジアのホソカ科 (双翅目) の系統と生物地理	C105 沢田佳久 (兵庫県博・昆虫共生) マメヤハズの変異と多様性	D105 〇山口勇気・矢澤ひろみ・小林紀絵・小松一磨 (新潟大学院・教育)・岩西哲 (みなくち子どもの森自然館)・工藤起来 (新潟大学・教育) トゲズネハリアリ (<i>Cryptopone sauteri</i>) の生活史と繁殖システム	E105 〇中村早寿・板野紘宜・菊池理・前川清人 (富山大院・理) ネバダオオシロアリの初期巣における兵蟻分化調節への生殖虫の影響
10:15	A106 〇石井秀和・林正美 (埼玉大・教育・生物) 日本産クワキヨコバイ属 <i>Pagaronia guttigera</i> 種群の分類学的研究 (カメムシ目:ヨコバイ科)	B106 ラックナー トーマス (北海道大学) Saprininae of the Australopacific region: victims of isolation or victims of man?	C106 〇林成多 (ホシザキグリーン財団)・宮武頼夫 (元大阪自然史博)・門脇久志 島根県のキジラミ類とその多様性	D106 〇西村知良 (日大・生物資源)・沼田英治 (京大・院理) ヒメマルカツオブシムシの野外集団で幼虫期を延長する個体の割合とその要因の検討	E106 〇田中利治 (名古屋大学・院・生命農学)・Jeffrey A. Harvey (NIOO-KNAW) 内部寄生蜂が利用する寄主ガード

第1日目 (9月18日 土曜) 午前 (続き)

	A	B	C	D	E
10:30	A107 ○神代瞬(九大院・生資環・昆虫)・紙谷聡志(九大院・農・昆虫)・奥寺繁(九大・農・昆虫) クワキヨコバイ属 <i>okadai</i> 種群の分類学的研究	B107 ○須島充昭(東大総合文化)・Derek Sikes (Univ. of Alaska Museum) アラスカ産 armyworm に関する新知見	C107 ○伴光哲・岡島秀治(東京農大・農・昆虫) ラオスのナガカメムシ相	D107 ○松野倫也(大阪市大・院理)・沼田英治(京大・院理) ヒメマルカツオブシムシ概年リズムの位相設定における地理的変異	E107 ○山下藍(九大院・生資環学府)・高須啓志(九大院・農) 内部寄生蜂 <i>Asecodes hispinarum</i> の繁殖戦略
10:45	A108 ○紙谷聡志(九大院・農・昆虫)・奥寺繁(九大・農・昆虫)・神代瞬(九大院・生資環・昆虫)・久富倫子(九大・農・昆虫) オカダクワキヨコバイおよびその近縁種に関する生物地理・分類学的研究	B108 ○高野俊一郎(九大・生資環)・望月淳(農環研)・小西和彦(北農研)・高須啓志(九大・農)・中村達(国際農研) キムネクロナガハムシのミトコンドリア DNA 多型	C108 レ ゴック アイ ン・緒方一夫・細石真吾(九大熱研セ) 北部ベトナム農業生態系のアリ群集の多様性(ハチ目:アリ科)	D108 新井哲夫(山口県立大学環境生態学研究室) タンポココロギの生活史の地理的変異-分布と種分化	E108 ○Makatiani Jacqueline(九州大学院生資環学府)・高須啓志(九大院・農) Food foraging behavior in the larval parasitoid <i>Microplitis croceipes</i>
11:00	A109 井上広光(果樹研究所) 日本産キジラミ亜科(半翅目:キジラミ科)全種の所属再検討	B109 ○澁谷祐輝・後藤真里・土田浩治(岐大・昆虫生態)・鈴木俊文(ギフチョウの翔ぶ里山の自然を考える会) ギフチョウの遺伝的集団構造に関する研究	C109 五箇公一(国立環境研究所) 外来種問題に見る Host-parasite 共進化系崩壊リスク	D109 ○近森ちさこ・中尾史郎(京都府大院・応用昆虫) 日本に侵入した <i>Frankliniella fusca</i> (Hinds) (アザミウマ目:アザミウマ科)は分布域をなぜ拡大しなかったのか?	E109 ○白井明日華・工藤起来(新潟大院・教育) 餌の利用可能量がフタモンアシナガバチの創設メスの子殺しに及ぼす影響
11:15	A110 田中宏卓(琉大・農・昆虫) 沖縄島ヤンバル地域で見つかったコナカイガラムシ科 <i>Dysmicoccus</i> 属の2未記載種とその共生アリ相について	B110 ○田村英之・土田浩治(岐阜大院・昆虫生態) ウスバシロチョウの遺伝的多様性と系統地理	C110 ○井上真紀・五箇公一(国立環境研究所)・伊藤文紀(香川大学) 侵略的外来種アルゼンチンアリのスーパーコロニー間における闘争と遺伝構造	D110 ○新谷喜紀・田島潤也・宮原亮平(南九州大院・昆虫生態) カスミカメ2種における休眠卵生産のコスト	E110 笹川浩美(日本科学技術振興財団 JSF・科学技術館, FAIS・研究開発部) ミツバチ類の社会性行動「寄生ダニ戦略」とヒト社会の科学コミュニケーション
11:30	A111 ○澤田宗一郎(九大院・生資環・昆虫)・紙谷聡志(九大院・農・昆虫) 日本産コバネナガカメムシ科の分類学的研究	B111 吉澤和徳(北海道大学) POY? ...ほい!	C111 高橋尚貴(香川大・農)・頭山昌郁((有)七福)・伊藤文紀(香川大・農) アリヅカココロギはアルゼンチンアリと共存可能か?	D111 村山茂樹(インベントリ・リサーチ) 粘菌 <i>Physarum polycephalum</i> の変形体を餌として用いたベニボタル <i>Lycostomus modestus</i> 幼虫の飼育と全齢期の記載	E111 ○遠藤知二・藤田知香(神戸女学院大・人間科学) アルマアナバチの共同育房はなぜ発達したか: ツツアナバチ属近縁2種の比較
11:45	A112 ○山田量崇(徳島県博)・M. Nasser (University of Calicut)・Chandish R. Ballal (National Bureau of Agriculturally Important Insects) 熱帯アジアの農業生態系における天敵資材としてのハナカメムシ類	B112 直海俊一郎(千葉県立中央博物館) リニージ種概念と生物の命名規約を繋ぐ新たな枠組み	C112 ○河村知晴(香大院・農)・頭山昌郁((有)七福)・伊藤文紀(香大・農) ウメマツオオアリはなぜアルゼンチンアリと共存できるのか	D112 岩泉連(横浜植物防疫所) マイマイガ幼虫・蛹の発育調査	

第1日目 (9月18日 土曜) 午後	
	公開シンポジウムA (D会場: 301 講義室)
	<p>テーマ「生物多様性保全における研究者の役割」 企画者・世話人: 溝田浩二(宮城教育大学附属環境教育実践研究センター) S1A1 中村康弘(日本チョウ類保全協会): 日本の昆虫類保全の展望と課題: チョウ類を例として S1A2 永幡嘉之(山形大学): 研究者、行政、地域住民の役割: チョウセンアカシジミを例に S1A3 林田光祐(山形大学): 都沢湿地の保全活動の展開と今後の課題</p>
13:00 15:30	公開シンポジウムB (E会場: 302 講義室)
	<p>テーマ「必要な人にとどけたい昆虫の生物多様性情報」 企画者・世話人: 前藤 薫(神戸大院・昆虫機能) S1B1 五箇公一・岡本卓(国立環境研): 地球時代の環境保全に必要とされる生物多様性情報 S1B2 三浦一芸(農総研): 分子を利用すれば害虫と天敵の同定は簡単 S1B3 神保宇嗣・倉島治・宇津木望・加藤俊英・伊藤元己(東大): DNA バーコーディングと生物多様性情報をつなぐ情報システム S1B4 戸田正憲・胡耀光(北大・低温研): 生物多様性科学のための同定支援ツール開発: 失敗と成功</p>
15:30 16:30	学会賞授とおよび受賞講演 (D会場: 301 講義室)
16:30 18:00	総会 (D会場: 301 講義室)
18:15 20:15	懇親会 (鶴岡ワシントンホテル)

一般講演

第2日目 (9月19日 日曜) 午前					
	A	B	C	D	E
9:00	A201 ○藁島悠介(北大院・農・昆虫体系・学振DC)・林成多(ホシザキグリーン財団)・小林憲生(北大・総合博)・吉富博之(愛媛大・ミュージアム) クロシオガムシは本当に原始的か?	B201 ○細石真吾(九大・熱農研セ)・丸山宗利(九大博)・緒方一夫(九大・熱農研セ) フクラミシリアゲアリ亜属 <i>Physocrema</i> (ハチ目: アリ科: シリアゲアリ属) の分子系統と生物地理学	C201 野村周平(国立科学博物館動物研究部) アリヅカムシは土壤動物か?(コウチュウ目, ハネカクシ科, アリヅカムシ亜科))	D201 大谷英児(森林総合研究所) カシノナガキクイムシ発音器官の微細構造	E201 ○高須啓志(九大院農)・山下藍(九大院生資源学府) 侵入害虫キムネクロナガハムシの生活史特性
9:15	A202 古川恒太(北大院・農・昆虫体系) 日本産 <i>Gloeosoma</i> 属(コウチュウ目: ミジンムシ科)の分類学的研究	B202 ○荒谷邦雄・細谷忠嗣(九大・院・比文) 古伊豆半島は実在したのか? 伊豆諸島のクワガタムシ類の分子系統地理学と生活史変異	C202 岸本年郎(自然研) 小笠原諸島鳥島列島の昆虫相-その特性と保全上の価値-	D202 上田恭一郎(北九州市立自然史・歴史博物館) ヤガ上科の鼓膜器官(2)コブガ科	E202 ○竹内啓一(大阪府大・生環)・金沢至(大阪市自然博) 鱗翅類の日周活動性(1)-予備的調査-
9:30	A203 鶴智之(北大・農・昆虫体系) 日本産ヒメハナノミ族(コウチュウ目, ハナノミ科)の系統分類	B203 ○篠原明彦・角田恒雄(国立科博) ヒラタハバチ科(ハチ目)上位分類群の分子系統解析	C203 久松正樹(ミュージアムパーク茨城県自然博物館) 茨城県笠間市の野生ハナバチ	D203 佐藤俊介・清水晃(首都大院・理工) クモバチ(ベッコウバチ)科の触角感覚子の比較形態学的研究	E203 ○菊川茂・内多優・高橋奈々子・本田美保・前川達也(富山大・理・生物) 光周期と温度周期下でのノシメダグラメイガの羽化リズム
9:45	A204 ○細谷忠嗣・荒谷邦雄(九大・院・比文) ヒラタクワガタ <i>Dorcus titanus</i> の分類学的再検討	B204 松本和馬(森林総合研究所) 各地の「東京西郊型エビラクナ」の食性の比較	C204 ○仁木佐知恵・遠藤知二(神戸女学院大・人間科学) 都市環境下におけるセイヨウミツバチの花資源利用	D204 ○牧野俊一・岡部貴美子・神崎菜摘(森林総合研究所)・藍艶秋(立徳大学・台南市) 台湾産クマバチ <i>Xylocopa ruficeps</i> の特異なアカリナリウム	E204 ○長澤恵介(三重大・生物資源)・秋野順治(工織大)・塚田森生(三重大) 甲虫を誘引する <i>Annona</i> 属の花の香気成分とその時間的变化

第2日目 (9月19日 日曜) 午前 (続き)

	A	B	C	D	E
10:00	A205 ○ Taeman HAN (NAAS・Seoul National Univ.)・Jongchel JEONG (SMNH)・Taehwa KANG・Yongbo LEE (NAAS)・Hyojung CHUNG (Kyungpook National Univ.)・Seunghwan LEE・Wonhoon Lee (Seoul National Univ)・Ki-Gyoung KIM (NIBR)・Haechul PARK (NAAS) Cryptic Speciation of <i>Chrysochroa fulgidissima</i> (Coleoptera: Buprestidae) : How many independent species exist?	B205 ○後藤 寛貴, 三浦徹 (北大院・環境科学) メタリフェルホソアカクワガタの雄における大顎サイズの遺伝率	C205 ○中瀬悠太・加藤真 (京大院・人環) 夜行性の真社会性カリバチによる送粉と花粉塊による植物の同定	D205 ○佐山勝彦 (森林総研北海道)・小坂肇 (森林総研九州)・牧野俊一 (森林総研) キイロスズメバチ女王におけるスズメバチタマセンチュウ寄生率の年次変動	E205 ○後藤慎介・池野知子 (大阪市大・院理)・沼田英治 (京大・院理) 概日時計遺伝子によって制御されるホソヘリカメシの光周性
10:15	A206 ○金尾太輔 (九大・生資環・昆虫)・丸山宗利 (九大博) マレー半島 Ulu Gombak における好白蟻性 Feldini 族ハネカクシ (甲虫目: ハネカクシ科) の種多様性と寄主特異性	B206 ○広瀬義躬 (九大)・矢代直也 (宝塚北高校)・竹内良範 (明石望海中学)・矢代敏久 (岡大院・環境・昆虫生態) タマガコバチ属 (<i>Trichogramma</i>) 卵寄生蜂の雄における翅多型	C206 磯野昌弘 (森林総研東北) スキャナーと画像解析ソフトによるトラップサンプルの簡易評価の試み	D206 ○小柳津渉 (新潟大学院・教育)・草間理佳子・原優太・渡邊聖之 (新潟大学・教育)・工藤起来 (新潟大学 教育) 新潟市におけるベイトトラップで捕獲したスズメバチ類の季節消長	E206 ○泉洋平・吉田英哉・園田昌司 (岡山大・資生研) 休眠誘導の異なるオオタバコガ蛹の低温耐性の比較 2
10:30	A207 ○弘岡拓人 (九大院・生資源・昆虫)・廣永輝彦 ((株) 地域環境計画)・丸山宗利 (九大博) 日本産ハラブトハナアブ属 <i>Mallota</i> の分類学的再検討 (ハエ目, ハナアブ科)	B207 ○土居朋嵩 (九大院・比文・生物体系)・荒谷邦雄・細谷忠嗣 ナガサキアゲハ日本亜種 <i>Papilio memnon thunbergii</i> の雌斑紋の地理的変異	C207 ○鈴木浩史・村田浩平・村田達郎 (東海大・農)・岩田真太郎 (東海大・阿蘇教養) 阿蘇地域における牛糞をとりまく昆虫相と個体数の推移	D207 ○小松一磨 (新潟大学院・教育)・小西和彦 (北海道農業研究センター)・工藤起来 (新潟大・教育) ブラジル産サタンアシナガバチに寄生するヒメバチの一種 <i>Pachysomoides sp.</i>	E207 ○金子文俊 (阪大院理)・片桐千伊 (北大低溫研)・伴野豊 (九大農学院)・白井孝治 (信州大繊維) 蚕の繭の透湿性の品種による違い
10:45	A208 倉西良一 (千葉県立中央博物館) 日本に分布する三種のムラサキトビケラ属	B208 ○鶴崎展巨・松本透・岡村和紀 (鳥取大・地域) 中部地方におけるアカサビザトウムシの染色体数と斑紋の地理的分化と環状重複	C208 大榎厚子 (鳥大・農)・○川上靖 (鳥取県博)・佐野淳之 (鳥大・農) 火入れ後の二次遷移に伴う直翅目昆虫群集の変化とダイリフキバツタの保全	D208 ○藤井智久 (九大院・比文)・松尾和典 (九大院・生環資)・湯川淳一 (九大)・桐谷圭治 (伊東市)・阿部芳久 (九大院・比文)・徳田誠 (九大・高推セ) 伊豆半島と伊豆諸島におけるイヌツゲタマバエ (ハエ目: タマバエ科) の捕食寄生蜂群集の比較	E208 ○河野勝行・飯田博之・本多健一郎 (農研機構・野菜茶業研究所・野菜 IPM) 各種鱗翅目発生予察用合成性フェロモン誘引剤に特異的に誘引されたキリガ類
11:00	A209 ○広渡俊哉 (大阪府大院・昆虫)・松井晋 (立教大・理)・高木昌興 (大阪市大・院理)・那須義次 (大阪府病害虫防除所)・上田恵介 (立教大・理) 南大東島のモズの自然巣から羽化した鱗翅類	B209 日和佳政・佐久間慎介・○草桶秀夫 (福井工大・工) 1 級河川水系におけるゲンジボタル個体群の遺伝的多様性	C209 ○佐々木雄悟・佐藤智・安田弘法 (山形大院・農) カプトエビが発生する水田の環境的要因と生物的要因	D209 ○静貴子・遠藤知二 (神戸女学院大院・人間科学) 開花フェノロジーからみたイヌビワとイヌビワコバチの繁殖戦略	E209 ○桐山哲・岩田隆太郎 (日大・生物資源) ルリボシカミキリ雄成虫における揮発性フェロモンの存在
11:15	A210 ○小林茂樹・広渡俊哉 (大阪府大院・昆虫)・黒子浩 (阪南市) センリョウ科の葉に潜るコハモグリガ (ホソガ科) の分類と潜葉習性	B210 ○杉浦溪・久保田耕平 (東大・農) 冷温帯林におけるオオトラフハナムグリ種群の遺伝的分化	C210 ○中西康介・田和康太・村上大介・沢田裕一 (滋賀県大・環境科学) 滋賀県の水田におけるコムズムシ属 (<i>Sigara</i>) の動態と水田環境との関係	D210 ○徳田誠 (九大・高推セ)・松尾和典 (九大・生資環・昆虫)・湯川淳一 (九大)・桐谷圭治 (伊東市) 三宅島のシロダモタマバエ個体群はなぜ衰亡したのか	E210 ○大野正彦 (都健康安全研セ)・後藤純子・作山宗樹・佐藤顕義・向山満 (NPO コウモリの保護を考える会) コウモリノミ <i>Nycteridopsylla dictena</i> に関する新たな知見

第2日目 (9月19日 日曜) 午前 (続き)					
	A	B	C	D	E
11:30	A211 坂巻祥孝 (鹿児島大・農) 28SrDNA 領域によるキバガ科内の系統関係推定 (鱗翅目)	B211 ○久保田耕平 (東大農)・久保田典子 (横浜市)・乙部宏 (津市) 「種の保存法」による緊急指定種タカネリクワガタの遺伝的多様性	C211 ○三田村敏正・荒川昭弘・岡崎一博・松木伸浩・山田真孝 (福島農総セ) 水田およびその周辺に生息する水生昆虫の生態解明～捕食性昆虫・ミゾナシズムシの飼育～	D211 ○片山元気・金子翔・辻和希 (琉球大学) 在来アリと外来アリではコロニーの成長に必要な栄養源が違う	E211 小溝克己 (鹿児島県立 錦江湾高等学校) ISEF (国際科学技術フェア) に見る世界の若者たちの昆虫学研究事情
11:45	A212 ○松尾和典 (九大院・生資環・昆虫)・江東権・楊 曼妙 (中興大・昆虫学系)・董景生 (台湾林試)・湯川淳一 (九大)・徳田誠 (九大・高推セ) 日本と台湾のタブノキ属植物 (クスノキ科) に多様な形状のゴールを形成する <i>Daphnephila</i> 属タマバエ (ハエ目: タマバエ科) の捕食寄生蜂相			D212 ○秋野順治 (京都工芸繊維大学大学院・応用生物学部門)・恒岡洋右 (理化学研・脳科学センター) 奴隷制社会での同巢識別とその化学信号: サムライアリとクロヤマアリ	

第2日目 (9月19日 日曜) 午後	
	公開シンポジウム (東京第一ホテル: 鳳凰の間)
13:00 16:00	<p>テーマ「昆虫から眺めた温暖化と生物多様性」</p> <p>企画者・世話人: 藤崎憲治 (京大院・農)・沼田英治 (京大院・理)</p> <p>S2C1 桐谷圭治 (伊東市) 外来種の北進が在来種を絶滅に追いやる: ミナミアオカメムシとアオクサカメムシ</p> <p>S2C2 湯川淳一 (九大) 昆虫の出現期と植物の開葉期のずれが生物多様性に及ぼす影響</p> <p>S2C3 石井 実 (大阪府大院・生環科) 温暖化と南方系チョウ類の分布拡大</p> <p>S2C4 沼田英治 (京大院・理)・森山 実 (宇都宮大・農) 都会のセミの多様性が失われた理由</p> <p>S2C5 藤崎憲治 (京大院・農) 温暖化のカスケード効果: シカの増加が昆虫の多様性に及ぼす影響</p> <p>総合討論 (沼田英治)</p>

第2日目 (9月19日 日曜) 夕刻 (小集会)					
	A	B	C	D	E
16:15 18:15	AW21. 季節適応談話会	BW21. 「昆虫の家族をめぐる進化生態学」第2回	CW21. 第9回 穿孔性昆虫を語る会	DW21. 好蟻性昆虫小集会	EW21. 第19回昆虫担当学芸員協議会総会「大学博物館と一般博物館のコラボレーション」
17:00 19:00	(特別会場: 旅館「月山荘」)				
	FW22. 「里山昆虫談話会 ― 里山以前を考える ―」				

一般講演

第3日目 (9月20日 月曜・祝日) 午前

	A	B	C	D	E
9:00	A301 ○松本吏樹郎 (大阪自然史博)・高須賀圭三 (愛媛大農) 日本産 <i>Zatypota</i> 属とその寄主について (Ichneumonidae, Pimplinae, <i>Polysphincta</i> -group)	B301 ○永井正生・神戸崇・八尾泉・秋元信一 (北大院・農・昆虫体系) 北海道に生息するエンドウヒゲナガアブラムシの遺伝的集団構造	C301 ○村田浩平・松浦朝奈 (東海大・農)・鈴木浩史 (東海大・大学院) オオルリシジミの個体数の年次変動と死亡要因	D301 小林知里 (元森の学校キョロコ) 十日町市松之山におけるオトシブミ類の寄主植物利用パターン	E301 ○鈴木誠治 (長岡技大)・永野昌博 (十日町市立里山科学館キョロコ) ヨツボシモンシデムシの雌雄による共同防衛
9:15	A302 ○渡辺恭平 (東京農大院・農・昆虫)・三田敏治 (東京農大・農・昆虫) 日本産ハマキヤドリヒメバチ族の分類学的研究 (その1) (ハチ目:ヒメバチ科:ウスマルヒメバチ亜科)	B302 ○吉野朋子・神戸崇・秋元信一 (北大・農・昆虫体系) エンドウヒゲナガアブラムシの寄主レース間 hybrid は親に比べて不利となるのか?	C302 ○江田慧子・中村寛志 (信州大学農学部 AFC)・西尾規孝 (上田市) 長野県安曇野市と東御市におけるオオルリシジミの卵寄生の比較	D302 ○山下聡 (京大)・安藤清志 (愛媛大)・伊藤昇 (コニカミノルタビジネステクノロジーズ株)・片山雄史 (愛媛大)・川那部真 (株式会社人と自然の環境研究所)・丸山宗利 (九大博)・久松定智 (愛媛大)・Piotr Wegrzynowicz (Polish Academy of Science)・保科英人 (福井大)・市岡孝朗 (京大) 東南アジア熱帯林における多孔菌類食性甲虫の群集構造	E302 ○小汐千春・高嶋宏 (鳴門教育大学)・立田晴記 (琉球大学農学部)・工藤慎一 (鳴門教育大学) フタイロカミキリモドキの後脚腿節の太さは地域個体群によって異なるか
9:30	A303 ○井手竜也 (九大院・比文)・和智仲是 (九大院・システム生命)・阿部芳久 (九大院・比文) アカガシ亜属 (ブナ科:コナラ属) から初めて記載されるゴール形成蜂 (膜翅目:タマバチ科:ナラタマバチ族) の1新種の形態・寄主範囲・生活環および生物地理	B303 秋元信一 (北海道大学大学院農学研究院昆虫体系学研究室) ユキムシ地域集団間の交雑による近交弱勢の検証:ヘテロシスの検出と形質間の差異	C303 ○安齋和樹・佐藤衣里・林田光祐 (山形大・農) 下層植生と食草密度がギフチョウ属2種の産卵行動に及ぼす影響	D303 日向愛美・藤山静雄 (信州大・理・生物)・上條慶子 (松本市) ヘイケボタル幼虫の生存と発育に及ぼす生息密度の影響	E303 ○大庭伸也 (京大・生態研・学振 PD)・立田晴記 (琉大・農)・工藤慎一 (鳴門教育大・学校教育) タガメの繁殖形質に働く表現型選択の測定
9:45	A304 三田敏治 (東京農大・昆虫) 日本産カマナシカマバチ属の分類学的再検討 (ハチ目:カマバチ科)	B304 ○ノヴコヴィチピリャナ・木村正人 (北海道大院・環境) 琉球列島におけるショウジョウバエと捕食寄生蜂の遺伝的分化と共進化	C304 ○田淵研 (東北農研・中央農研)・滝久智 (森林総研)・水谷信夫・長坂幸吉・守屋成一 (中央農研)・袖山悟志 (茨城県南農林事務所) ホソヘリカメムシのフェロモントラップ誘殺数とダイズ被害の関係	D304 ○渡部宏・矢野栄二 (近大院・農) オオカマキリの齢別のパッチ選好性	E304 ○野中俊文・伊藤智・井上創・渡邊敬史 (株式会社 建設技術研究所)・大久保健児・大久保祥子 (環境科学株式会社) オオモノサシトンボの生態に関する考察
10:00	A305 三田井克志 (九大総合研究博物館)・多田内修 (九大院・農・昆虫) 日本産ヤドリコハナバチ属 <i>Sphcodes</i> (コハナバチ科) の分類学的再検討	B305 ○粕谷菜月・三井偉由・木村正人 (北大院・環境) 寄生蜂 <i>Ganaspis xanthopoda</i> とその近縁種の種類, 系統と宿主選択	C305 ○田中寛・柴尾学 (大阪環農水総研)・那須義次 (大阪防除所)・若村定男 (沖縄農研セ)・永田健二・猪野正明 (サンケイ化学)・本郷智明 (信越化学)・粕谷幸夫・土岐照夫・奥西正夫・澤田清・宮本進 (大阪樹木医会) チャドクガのフェロモン剤の発売と設置・利用方法	D305 税所康正 (広島大院・工) セミの交尾生態に関する数理的考察	E305 ○田中陽介 (九大・システム生命)・粕谷英一 (九大・理) 後脚でフンをけるオンブバッタにおける後脚自切時の排泄行動

第3日目 (9月20日 月曜・祝日) 午前 (続き)

	A	B	C	D	E
10:15	A306 ○丸山宗利 (九大博)・藤原希美 (九大・農)・秋野順治 (京工織大・応用生物)・濱口京子 (森林総研・関西) クサアリ亜属 <i>Dendrolasius</i> (ハチ目: アリ科: ケアリ属) の分子系統と分類	B306 ○大島一正・長谷部光泰 (基生研・生物進化) 連鎖解析によるクルミホソガ幼虫の寄主適応遺伝子の探索	C306 仁井雄治 (株式会社地域環境計画)・手塚一雅 (株式会社森緑地設計事務所)・○磯輪亮太 (東京農大・農・昆虫) 街路樹害虫ニレハムシの新宿副都心における発生状況について	D306 八尋克郎 (滋賀県立琵琶湖博物館) イチゴを加害するゴミムシ類の生態的知見	E306 櫻井麗賀 (京都大学院・理) 3種のガ成虫にみるスズメによる捕食率の雌雄差
10:30	A307 ○真下雄太 (筑波大・院・生命環境)・町田龍一郎 (筑波大・菅平高原実験センター) 絶翅目 (ジュズヒゲムシ目) の発生学的研究 - 胚運動 -	B307 ○山田大邦 (札幌)・片桐千仍 (東京)・宮下洋子 (道文教大・人間科学健康栄養)・秋元信一 (北大院農・昆虫体系) トドネオオワタムシ (ユキムシ) の綿毛微細繊維の形状と発生の仕方	C307 ○喜久村智子・大野 豪・貴島圭介 (沖縄農研セ)・榎本雅身 (横浜植防成田支所)・前門尚美 (沖縄農水部) 沖縄のキク圃場におけるアザミウマ類およびハダニ類の種構成	D307 ○上田紘司 (岩手大院・連合農)・俵谷圭太郎・村山秀樹・佐藤智・西澤隆・村山哲也・豊増知伸・安田弘法 (山形大・農) アーバスキュラー菌根菌とリン施肥レベルの違いがアブラムシ-捕食寄生蜂系の相互作用に及ぼす影響	E307 ○厚地賢人・中夷勇輝・白拍子亜門・小溝克己 (鹿児島県立錦江湾高校)・金井賢一 (鹿児島県立博物館) 皆既日食でセミ類は鳴きやむか?
10:45	A308 ○梶浩平 (富山大院・理)・北條優 (琉球大・熱生研)・前川清人 (富山大院・理) タカサゴシロアリの兵蟻特異的な器官形成における形態形成遺伝子の機能解析	B308 ○松村洋子・吉澤和徳 (北大・農院・昆虫体系) 新奇形質の進化的起源: クビナガハムシ亜科の極端に長い交尾器を例に	C308 小西和彦 (北農研) 北海道におけるアシグロハモグリバエの寄生蜂相	D308 ○日比野翔・佐藤智・安田弘法 (山形大・農) キャベツ圃場の複数の広食性捕食者が複数害虫に及ぼす影響	E308 山岸正明 (沖縄病害虫防除セ) 選抜により、ウリミバエの交尾時刻を変更することはできるか? (予備試験)
11:00		B309 ○村井悠孔・荒谷邦雄・細谷忠嗣 (九大院・比文・生物体系) 膜質表面の微細構造に基づく日本産クワガタ属 (<i>Dorcus</i>) における雌交尾器内袋部の相同性の検証	C309 小西和彦 (北農研)・○前藤 薫・櫻井厚司 (神戸大院・農)・三浦一芸 (広島大院・生物圏、近中四農研)・安達鉄矢 (大阪環農水総研) DNA バーコーディングによるハモグリバエ科害虫の寄生蜂同定支援システムの構築	D309 ○大川純司・佐藤智・安田弘法 (山形大・農) ジャガイモ畑での2種捕食者と捕食者間にみられる種間関係について	E309 ○高須賀圭三 (愛媛大連合農学)・松本史樹郎 (大阪自然史博物館) マダラコブクモヒメバチ <i>Zatypota albicoxa</i> による子殺し (Hymenoptera, Ichneumonidae, <i>Polysphincta</i> -group)

第3日目 (9月20日 月曜・祝日) 午後 (小集会)

	A	B	C	D	E
13:00 15:00	AW31. 多女王制進化の道程	BW31. 第14回 地表性甲虫談話会例会	CW31. 双翅学会	DW31. 熱帯昆虫多様性小集会	EW31. 昆虫分類学若手懇談会シンポジウム
15:15 17:15	AW32. ハナバチ談話会	BW32. 日本半翅類学会			

大会参加者名簿

(8月20日現在、アルファベット順)

○は懇親会申込者、名前のあとの記号は講演番号(発表者のみ)

A		○ 後藤三千代(山形大学農学部)	AW213
○ 阿部芳久(九州大学大学院比較社会文化研究院)	B104	○ 後藤寛貴(北海道大学大学院環境科学院)	B205
安喰幸則(有限会社サプラス)		○ 後藤慎介(大阪市立大学大学院理学研究科)	E205
赤嶺真由美(九州大学)	CW212	郷右近勝夫(東北学院大)	
○ 明石寛道(山形防疫所)			
○ 秋元信一		H	
(北海道大学大学院農学研究院昆虫体系学研究室)	B303	萩原康夫(昭和大学)	
秋野順治		橋本健一(千葉県立保健医療大学)	
(京都工芸繊維大学大学院応用生物学部門)	D212	韓泰萬(NAAS・Seoul National Univ.)	A205
安達翔平(東京農工大)		林成多(財団法人ホシザキグリーン財団)	C106
安齋和樹(山形大学農学部)	C303	○ 林正美(埼玉大学教育学部生物学研究室)	
新井哲夫(山口県立大学)	D108	日比野翔	
○ 荒谷邦雄		(山形大学大学院農学研究科生物生産学専攻)	D308
(九州大学大学院比較社会文化研究院)	B202 EW314	○ 弘岡拓人	
厚地賢人(鹿児島県立 錦江湾高等学校)	E307	(九州大学生物資源環境科学府昆虫学教室)	A207
B		○ 広瀬義躬(九州大学)	B206
伴光哲		廣田忠雄(山形大学理学部生物学科)	AW311
(東京農業大学大学院農学研究科農学専攻昆虫学研究室)	C107	○ 広渡俊哉	
C		(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)	A209
○ 近森ちさこ		○ 久松正樹(ミュージアムパーク茨城県自然博物館)	C203
(京都府立大学大学院応用昆虫学研究室)	D109	○ 細石真吾	
D		(九州大学熱帯農学研究センター)	B201 DW314
土居朋嵩(九州大学大学院比較社会文化学府)	B207	○ 細谷忠嗣(九州大学)	A204
E			
遠藤千尋(新潟大学超域研究機構)	AW211	I	
○ 遠藤真太郎		飯田博之(野菜茶業研究所)	
(信州大学大学院総合工学系研究科山岳地域環境科学専攻)		市川憲平(姫路市立水族館)	
○ 遠藤知二(神戸女学院大学人間科学部)	E111	○ 市田忠夫	
F		((地独)青森県産業技術センター農林総合研究所)	
○ 藤井智久		井手竜也(九州大学大学院比較社会文化学府)	A303
(九州大学大学院比較社会文化学府国際社会文化学府)	D208	池田紘士(森林総合研究所)	BW312
○ 藤崎憲治(京都大学大学院農学研究科)	S2C5	○ 井上広光	
藤澤貴弘		(独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所)	A109
(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)	BW311	○ 井上真紀(国立環境研究所)	C110
○ 藤山静雄(信州大学理学部生物科学教室)	D303	○ 井上大成(森林総合研究所多摩森林科学園)	C103
○ 古川恒太(北海道大学大学院農学院)	A202	石井秀和(埼玉大学大学院)	A106
G		○ 石井実(大阪府立大学生命環境科学研究科)	S2C3
五箇公一(国立環境研究所)	C109 S1B1	○ 石谷正字(大阪産業大学)	C101
		○ 磯野昌弘(森林総合研究所東北支所)	C206
		○ 磯輪亮太(東京農業大学昆虫学研究室)	C306
		○ 市岡孝朗(京都大学)	DW313
		○ 伊藤文紀(香川大学農学部)	C111 DW312
		伊藤桂(高知大学農学部昆虫生態学研究室)	
		伊藤智(株式会社建設技術研究所)	

○ 伊藤嘉昭(日進市)		小松貴(信州大学理学部)	DW214
○ 伊東憲正(株式会社地域環境計画)		小溝克己(鹿児島県立錦江高等学校)	E211
○ 岩泉連(横浜植物防疫所)	D112	○ 小西和彦(北海道農業研究センター)	C308
○ 岩田隆太郎(日本大学生物資源科学部)		○ 小汐千春(鳴門教育大学)	E302
泉洋平(岡山大学資源植物科学研究所)	E206	○ 小柳津渉(新潟大学院・教育)	D206
		○ 久保田耕平(東京大学大学院農学生命科学研究科)	B211
J		○ 工藤起来(新潟大学教育学部)	
○ 神保宇嗣(東京大学)	S1B3	○ 工藤慎一(鳴門教育大学)	BW211
○ 神通芳江(筑波大学大学院生命環境科学研究科)	A102	○ 工藤誠也(弘前大学大学院)	
		○ 神代瞬(九州大学生物資源環境科学府)	A107
K		○ 倉西良一(千葉県立中央博物館)	A208
梶村恒(名古屋大学大学院)		草桶秀夫(福井工業大学)	B209
○ 紙谷聡志(九州大学農学研究院昆虫学教室)	A108		
○ 金尾太輔		L	
(九州大学生物資源環境科学府昆虫学教室)	A206	○ Lackner Tomas(北海道大学大学院農学院)	B106
金井賢一(鹿児島県立博物館)			
○ 金沢至(大阪市立自然史博物館)		M	
金尾良次郎(近畿中国四国農業研究センター)		前田和夫(広島市森林公園昆虫館)	
金子文俊(大阪大学大学院理学研究科)	E207	○ 前野浩太郎(農業生物資源研究所)	D104
○ 粕谷菜月(北海道大学)	B305	○ 前藤薫(神戸大学大学院農学研究科)	C309
○ 片倉晴雄		Makatiani Jacqueline	
(北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門)		(九州大学大学院生物資源環境科学府)	E108
片山元気		○ 牧野俊一(独立行政法人森林総合研究所)	D204
(琉球大学農学部亜熱帯農林環境科学科)	D211	○ 正木進三(弘前市)	
○ 加藤徹(北海道大学大学院理学研究院)		○ 丸山宗利(九州大学総合研究博物館)	
○ 河合章(野菜茶業研究所)			DW215 DW311 A306
河上康子(高槻市)		○ 松尾和典	
○ 川上靖(鳥取県立博物館)	C208	(九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学研究室)	A212
河村知晴(香川大学大学院農学研究科)	C112	○ 真下雄太	
○ 川崎淳一		(筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻)	A307
(北海道教育大学大学院教育学研究科 理科教育専修)		増田倫士郎(京都府立大学大学院)	D101
菊川茂(富山大学理学部生物学科)	E203	○ 増子恵一(専修大学経営学部)	
○ 喜久村智子(沖縄県農業研究センター)	C307	○ 松本和馬(森林総合研究所)	B204
衣浦晴生(森林総合研究所)		○ 松本吏樹郎(大阪市立自然史博物館)	A301
○ 桐谷圭治(伊東市)	S2C1	○ 松村洋子	
○ 桐山哲		(北海道大学農学院環境資源学専攻昆虫体系学教室)	B308
(日本大学生物資源科学部森林資源科学科森林動物学研究室)	E209	○ 松野倫也(大阪市立大学大学院理学研究科)	D107
岸本年郎(自然環境研究センター)	C202	藁島悠介	
北川雄士(香川大学大学院農学研究科)	E103	(北海道大学大学院農学院昆虫体系学教室)	A201
藏満司夢(筑波大学)		○ 三田敏治(東農大・農・昆虫)	EW312 A304
小林知里(元森の学校キョロロ研究員)	D301	三田井克志(九州大学総合研究博物館)	A305
○ 小林紀絵		○ 三田村敏正(福島県農業総合センター)	C211
(新潟大学大学院教育学研究科昆虫生態学研究室)	E101	宮永龍一(島根大学)	
○ 小林茂樹(大阪府大院・生環・昆虫)	A210	○ 宮野伸也(千葉県立中央博物館)	
○ 江田慧子		○ 宮武頼夫(元大阪市立自然史博物館)	
(信州大学農学部アルプス圏フィールド科学教育研究センター)	C302	溝田浩二(宮城教育大学)	
○ 河野勝行(野菜茶業研究所)	E208	Montoya Alvarez Andres Felipe	
○ 小松一磨(新潟大学大学院昆虫生態学研究室)	D207	(高知大学農学部昆虫研究室)	D102

- 向井裕美
(佐賀大学大学院農学研究科応用生物科学専攻動物行動生態学分野) BW213
- 村井歩
(北海道教育大学大学院教育学研究科生物学教室)
- 村井悠孔
(九州大学大学院比較社会文化学府国際社会文化専攻
地球自然環境講座生物体系学教室) B309
- 村田浩平(東海大学農学部) C301
- 村山茂樹(インベントリ・リサーチ) D111
- 森山実(宇都宮大学地域共生研究開発センター)
- N**
- 永井正生(北海道大学昆虫体系学教室) B301
- 長澤恵介(三重大学生物資源学部) E204
- 中峰空(三田市有馬富士自然学習センター)
- 中村寛志
(信州大学農学部アルプス圏フィールド科学教育研究センター) C102
- 中村早寿(富山大学大学院 理工学教育部) E105
- 中村剛之(弘前大学白神自然観察園) CW311
- 中西友章
(徳島県立農林水産総合技術支援センター果樹研究室)
- 中西康介
(滋賀県立大学大学院 環境科学研究科) C210
- 中尾史郎
(京都府立大学大学院生命環境科学研究科) AW212
- 中澤隆太(株式会社きかんし)
中瀬悠太
(京都大学大学院人間環境学研究科) C205 DW315
- 直海俊一郎(千葉県立中央博物館) B112
- 那須義次(大阪府病害虫防除所) C104
- 仁木佐知恵
(神戸女学院大学大学院人間科学研究科) C204
- 西川勝(愛媛大学農学部環境昆虫学研究室)
- 西本裕(小林聖心女子学院中学・高等学校)
- 西村知良
(日本大学生物資源科学部一般教養生物学研究室) D106
- 野村周平(国立科学博物館動物研究部) C201
- 野中俊文(株式会社建設技術研究所) E304
- Novkovic Biljana(北海道大学大学院環境科学院) B304
- 沼田英治(京都大学大学院理学研究科) S2C4
- O**
- 緒方一夫(九州大学熱帯農学研究センター) C108
- 大原昌宏(北海道大学総合博物館) EW213
- 大原直通
(九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室) A105
- 大庭伸也(京大学生態学研究センター) E303
- 大川純司(山形大学大学院農学研究科) D309
- 大野正彦(東京都健康安全研究センター) E210
- 大高一正(基礎生物学研究所生物進化研究部門) B306
- 大谷英児(森林総合研究所) D201
- 奥寺繁(九州大学大学院生物資源環境科学府) A104
- 奥野絵美(愛知県埋蔵文化財センター) B102
- 小野田晃治(千葉シャープゲンゴロウモドキ保全研究会)
- 小野知洋(金城学院大学現代文化学部)
大里沙羅
(京都大学大学院理学研究科生物科学専攻動物生態学研究室)
- 小柳津渉(新潟大学大学院昆虫生態学研究室) D206
- S**
- 三枝豊平(福岡市) B105
- 税所康正(広島大学工学研究院) D305
- 斉藤明子(千葉県立中央博物館)
- 斉藤隆(庄内総合支庁)
- 齋藤哲夫(名古屋市)
酒井雅博(愛媛大学ミュージアム)
- 坂巻祥孝(鹿児島大学農学部) A211
- 櫻井麗賀(京都大学大学院理学研究科) E306
- 櫻井俊一(山形昆虫同好会)
- 佐野正和
(北海道大学大学院農学研究科生物生態・体系学分野昆虫体系学研究室) EW313
- 笹川浩美(日本科学技術振興財団・科学技術館) E110
- 佐々木雄悟
(山形大学大学院農学研究科生物生産学専攻動物生態学研究室) C209
- 佐藤和樹
(信州大学大学院工学系研究科地球生物圏科学専攻)
- 佐藤宏明(奈良女子大学理学部生物科学科)
- 佐藤智(山形大学農学部)
- 澤田宗一郎
(九州大学生物資源環境科学府昆虫学研究室) A111
- 沢田佳久(兵庫県立人と自然の博物館) C105
- 佐山勝彦(森林総合研究所北海道支所) D205
- 澁谷祐輝
(岐阜大学院応用生物科学研究科昆虫生態学研究室) B109
- 四方圭一郎(飯田市美術博物館) FW223
- 嶋洪(九州大学博物館) EW211
- 清水晃(首都大学東京理工学研究科生命科学専攻) D203
- 清水将太
(筑波大学大学院生命環境科学研究科構造生物科学専攻) B101
- 篠原明彦(国立科学博物館) B203
- 新谷喜紀
(南九州大学環境園芸学部昆虫生態学研究室) D110
- 白井明日華(新潟大学大学院昆虫生態学研究室) E109
- 静貴子(神戸女学院大学) D209
- 杉浦溪
(東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 森林動物学研究室) B210

須賀丈(長野県環境保全研究会)

- 須島充昭
(東京大学大学院総合文化研究科広域システム伊藤研究室) B107
- 鈴木浩史(東海大学大学院農学研究科) C207
- 鈴木誠治(長岡技術科学大学) E301

T

- 田淵研(東北農業研究センター) C304
- 立川周二(NPO 法人自然環境復元協会)
- 多田内修(九州大学農学研究院昆虫学教室)
高野俊一郎
(九州大学大学院生物資源環境科学府) B108
- 高須啓志(九州大学大学院農学研究院) E201
- 高須賀圭三(愛媛大学連合農学研究科) E309
- 高田守(東京農工大学大学院連合農学研究科) BW212
- 武田光能(野菜茶業研究所)
武浪秀子(西川町大井沢自然博物館)
- 竹内啓一(大阪府立大学緑地環境科学科) E202
- 田村英之(岐阜大学大学院応用生物科学研究科) B110
- 田中寛(大阪府環境農林水産総合研究所) C305
- 田中宏卓(琉球大学農学部) A110
- 田中一裕(宮城学院女子大)
- 田中健一(山形大・農)
- 田中誠二(農業生物資源研究所) D103
- 田中利治(名古屋大学大学院生命農学研究科) E106
- 田中陽介
(九州大学大学院システム生命科学府生態科学研究室) E305
- 谷田光弘(八王子市役所)
- 戸田正憲(北海道大学低温科学研究所) S1B4
- 榎浩平(富山大学理工学教育部) A308
- 徳田誠(九州大学・高等教育開発推進センター) D210
- 友国雅章(国立科学博物館) EW212
- 土屋慶丞(釧路市立博物館)
- 辻英明(環境生物研究会)
- 鶴智之
(北海道大学大学院農学院生物資源科学科昆虫体系学研究室) A203
- 鶴崎展巨(鳥取大学地域学部) B208
- 塘忠顕(福島大学共生システム理工学類)

U

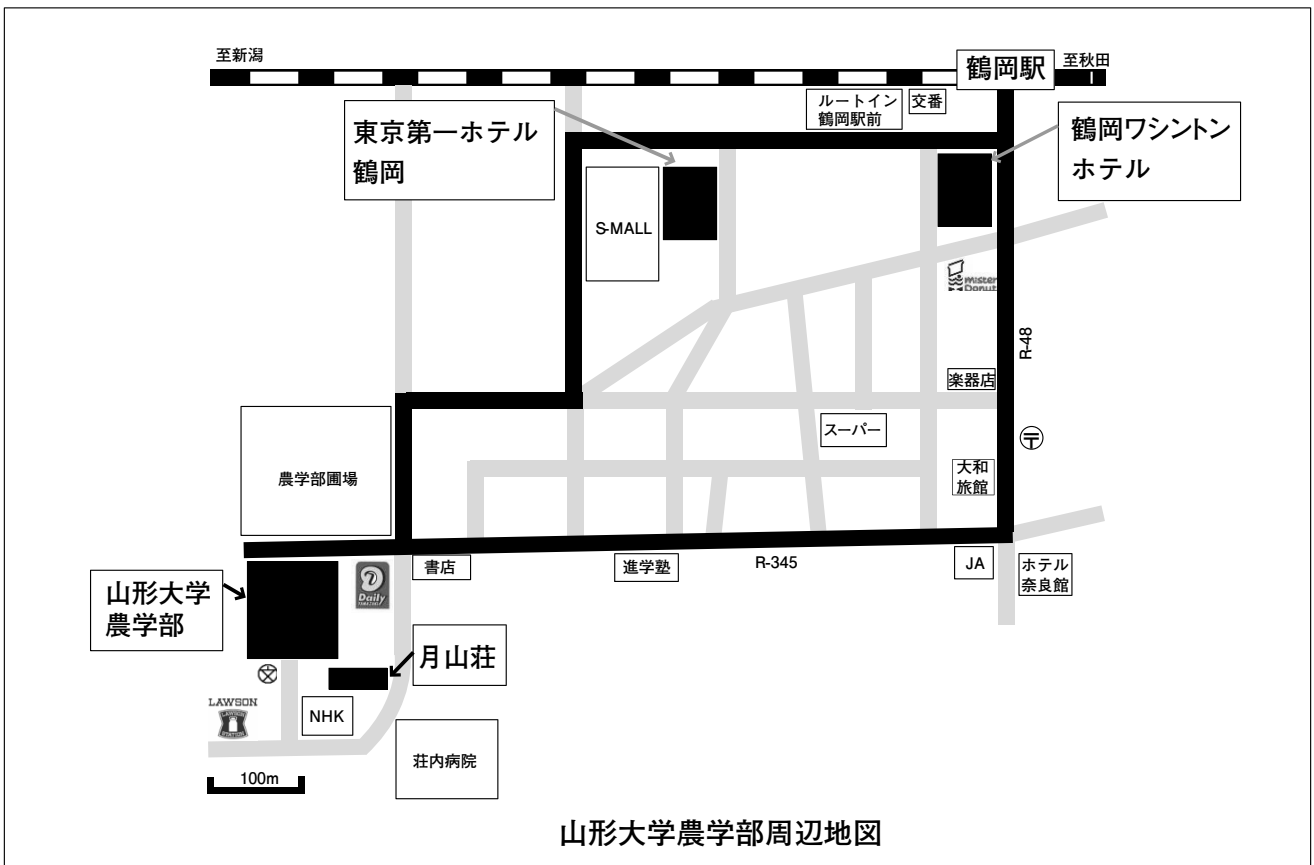
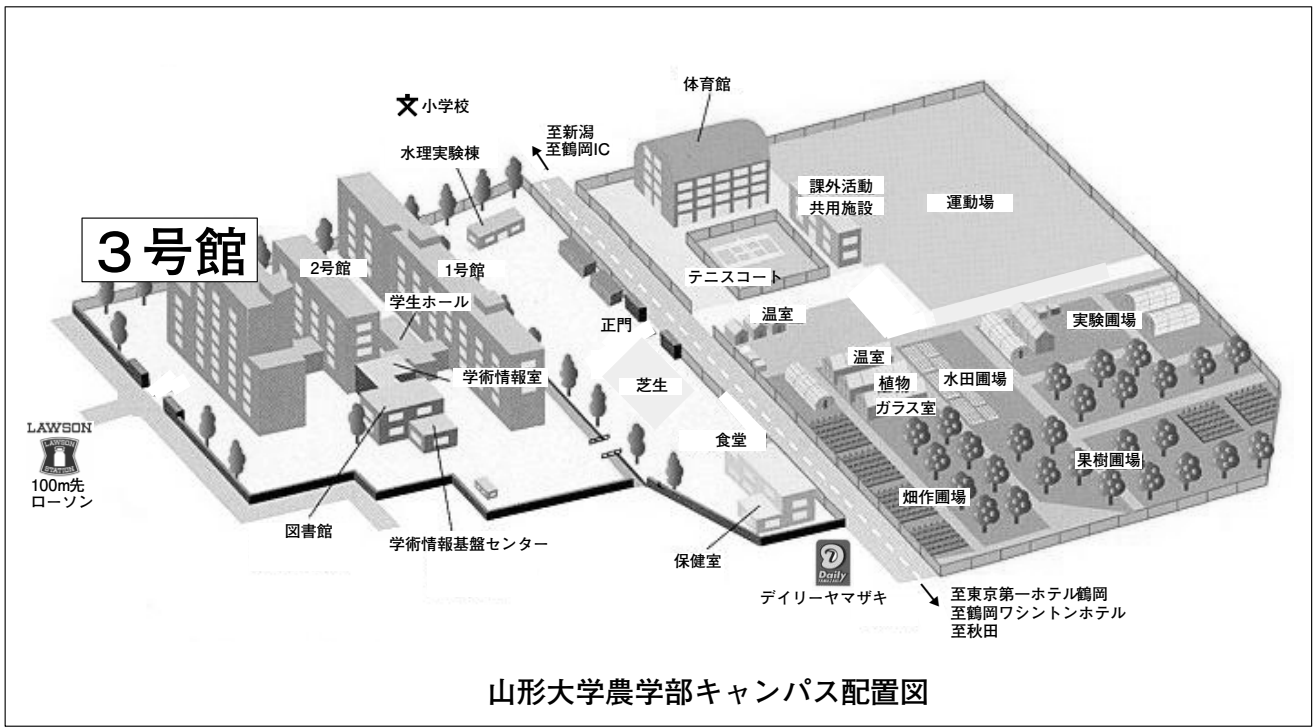
- 内船俊樹(横須賀市自然・人文博物館) A101
- 上野清(山形県立農業大学校)
- 上田明良(森林総合研究所北海道支所) CW211
- 上田紘司(岩手大学大学院連合農学研究科) D307
- 上田恭一郎(北九州市立自然史・歴史博物館) D202
- 梅村信哉(福井市自然史博物館)
- 梅津一史(秋田県立博物館)
- 浦野忠久(独立行政法人森林総合研究所)

W

- 和智仲是
(九州大学・大学院・システム生命科学府・進化遺伝学研究室) EW311
- 渡部宏(近畿大学農学部農業生産科学) D304
- 渡辺和弘(置賜総合支庁)
- 渡辺恭平(東京農業大学大学院昆虫学研究室) A302
- 渡康彦(芦屋大学)

Y

- 矢後勝也(東京大学総合研究博物館) DW211
- 八尋克郎(滋賀県立琵琶湖博物館) D306
- 山田大邦(札幌) B307
- 山田量崇(徳島県立博物館) A112
- 山田佳廣
(三重大学大学院生物資源学研究室昆虫生態学研究室)
- 山岸彩郁(北海道大学昆虫体系学教室) A103
- 山岸正明(沖縄県病害虫防除技術センター) E308
- 山口剛(千葉県立中央博物館) E102
- 山口勇氣(新潟大学大学院昆虫生態学研究室) D105
- 山中康如
(日本大学生物資源科学部森林資源科学科森林動物学研究室) E104
- 山下藍(九州大学大学院) E107
- 山下聡(京都大学) D302
- 山内健生(富山県衛生研究所)
- 安田弘法(山形大・農)
横井友之
(岡山大学大学院環境学研究室昆虫生態研究室)
- 横倉明(山形昆虫同好会)
- 横山克至(山形農総研セ)
- 吉田信代(東北農研セ)
- 吉田正隆(徳島昆虫研究会)
- 義久侑平
(酪農学園大学大学院酪農学研究科野生動物保護管理学研究室) B103
- 吉村真由美((独)森林総合研究所・関西支所)
- 吉野朋子
(北海道大学農学院生物生態・体系学講座昆虫体系学教室) B302
- 吉富博之(愛媛大学)
- 吉澤和徳
(北海道大学大学院農学研究院昆虫体系学教室) B111
- 湯川淳一(九州大学) S2C2 EW214



山形大学農学部までの交通経路

- 鶴岡駅から南西へ約 1.5 km
- 鶴岡駅前から徒歩で約 15 分
- 庄内空港から鶴岡駅前までリムジンバスで約 25 分

受付・一般講演の会場案内図 (3号館)

